

予報期間 8月20日から8月26日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 22日は、低気圧が日本のはるか東へ進み、前線が日本の東にのびる。高気圧がアムール川下流付近に移動する。
- 23日から24日は、高気圧が千島近海を東へ移動する。太平洋高気圧が日本の南への張り出しを強める。
- 25日から26日は、低気圧が日本海北部からオホーツク海へ進み、前線が北日本付近を通過する。太平洋高気圧の日本の南への張り出しが次第に弱まる。

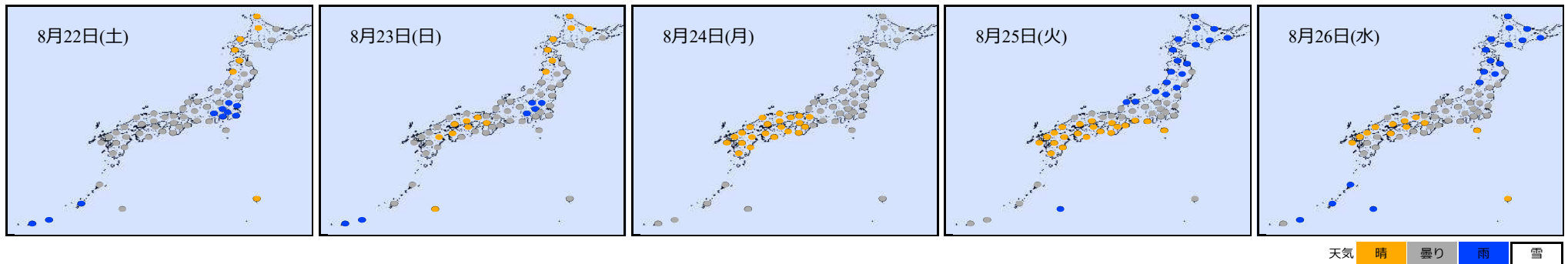
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 23日頃にかけて、暖かく湿った空気の影響で沖縄・奄美では大雨となる所があり、暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 西日本と東日本では、気温が平年より高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

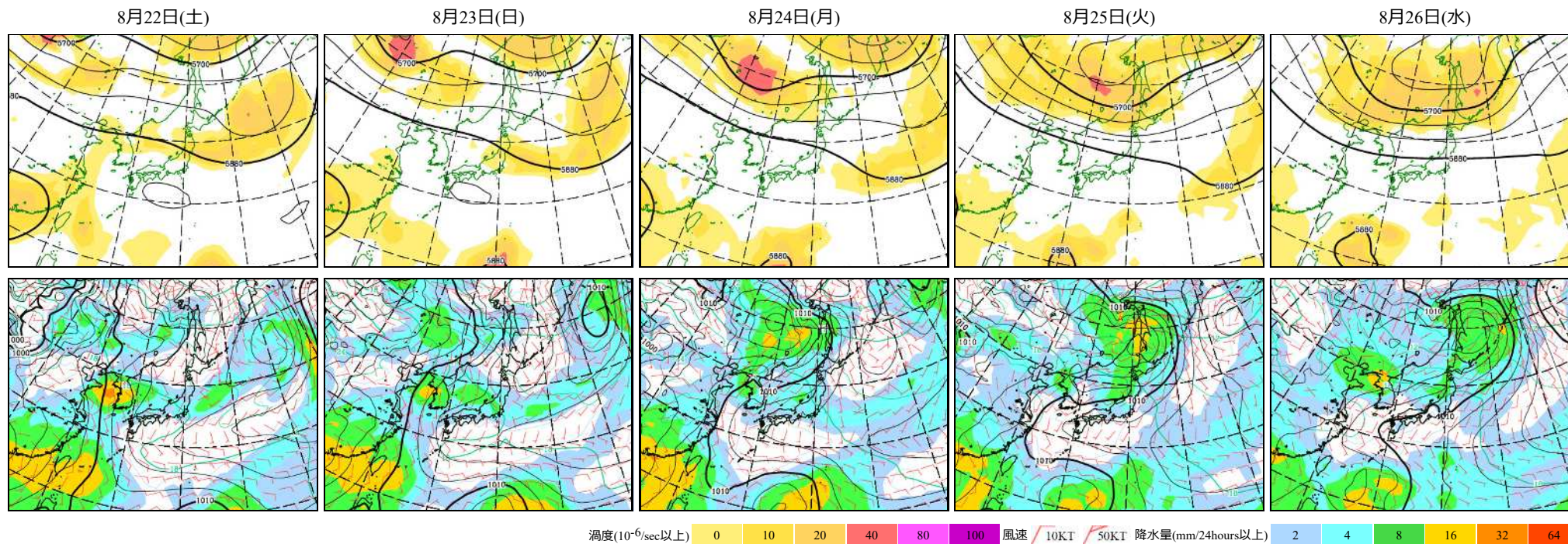
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

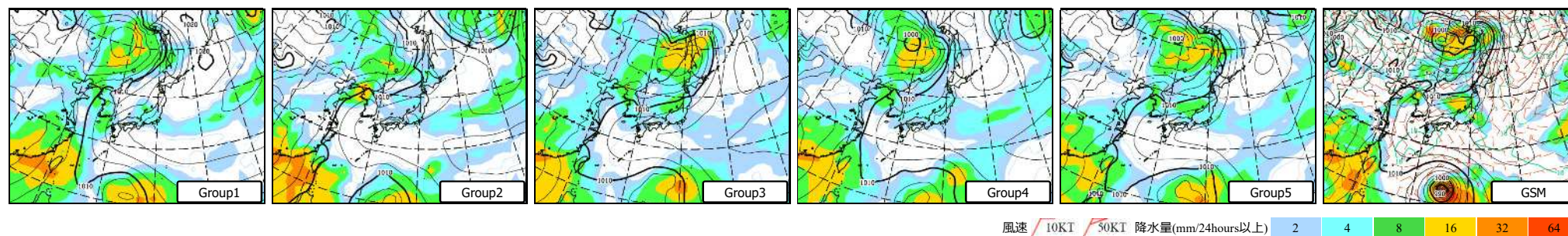


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、25日と26日は雨の降る所が多い。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月24日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、23日から24日にかけて千島近海を東へ移動する高気圧が強まった。また、日本の南に張り出す太平洋高気圧の軸が期間の中頃から北上して本州付近に近づいた。
- モデル間の差は、期間の中ごろから見られ、オホーツク海付近に進む低気圧の位置に違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。